

## 序

自発的に社会のために働いた人びとは、人間の歴史はじまって以来存在したであろうと思います。しかし、ボランティアは近代社会における市民社会を前提としたものだと思います。教会において宗教家が行なう社会福祉でもない。貴族がその義務として行なう社会福祉でもない。市民社会を構成する市民が、その市民としての自覚から民間社会福祉がはじまり、それへの一般市民としての参加がボランティア活動です。市民社会の構成員が、社会をつくるのはその社会の構成員以外にはありえないという自覚をもったとき、ボランティア活動がはじまるのです。

これは、もつともはやく市民社会を形成したイギリスの歴史における社会福祉の変遷とボランティアの発生、その発展をたどったものです。その中に、ボランティア活動を考えるうえでの鍵が、たくさん含まれていることがわかります。

なお、この中でしばしばカリタス型、アルムス型、アリメンタ型の社会福祉ということばを使用していますが、カリタス型とは人類を志向する社会福祉、アルムス型とは一定集団における相互扶助の社会福祉、アリメンタ型とは秩序維持を目的とする政策型の社会福祉をいいます。詳しくは拙著「社会福祉の哲学的基礎づけに関する覚書」(大阪市立大学、社会福祉論集第17・18合併号)を参照されたく思います。

目次

第1章 十八世紀イギリスの思想	1
革命期の二人の思想家	3
十八世紀の思想	5
ロックの思想	7
シャフツベリーの道徳哲学	10
社会感情と自己感情	12
第2章 十九世紀前半のイギリスの社会福祉	17
レッセ・フェールの思想と救貧法	19
博愛事業の成立	25
第3章 民間社会福祉の発達	27
COSの成立	29
セツルメント運動の発展	33
第4章 ボランティアの発生	37

# 第1章

## 18世紀

### イギリスの思想

第5章 ナショナリズムと社会福祉	47
ナショナリズムの成立	49
社会福祉への国家の接近	52
第6章 福祉国家と社会福祉	
— ボランティアの役割	57
福祉国家の成立	59
社会福祉の固有の対象	63
福祉国家の限界	65
民間社会福祉の役割と性格	66
新しい民間社会福祉の成立	67
福祉国家をこえるものを求めて	74
終わりに変えて	
ボランティア活動の進む道	77